

佐賀県日中友好協会 2012 年度

第2回市民講座開講

～佐賀の弥生文化の特質と中国～

講師:七田 忠昭氏

～七田忠昭氏プロフィール～

1977年佐賀県教育庁入庁。1986年(昭和61年)に開始された吉野ヶ里遺跡の発掘調査では、当初から2008年まで22年間発掘責任者を務める。国営吉野ヶ里歴史公園の整備事業にも携わり、本年より佐賀県立佐賀城本丸歴史館館長(佐賀大学非常勤講師)に就任。

国内の弥生時代関連・邪馬台国関連の韓国での日韓古代交流史関連の研究会や、学会、シンポジウムでの研究発表、講演、パネリストを務められ、多数の論文、著作を発刊されています。



吉野ヶ里北内郭
(弥生時代後期) 建設省「建物等復元検討調査報告書」より引用

期日:2012年12月1日(土)

午後1:30～3:00

会場:佐賀市立図書館大会議室
(資料代500円)

演題『佐賀の弥生文化の特質と中国』

有明海の湾奥に位置する佐賀平野では、玄界灘沿岸地方と同様に先進的な弥生文化が展開した。水稻農業と鉄器からなる金属器で代表される弥生文化は、当初は朝鮮半島からの新文化流入によって成立したが、紀元前100年頃から始まった中国との外交などを通じてさらに発展。佐賀平野では、前100年頃から後200年にかけて、中国の権威を帯びた銅鏡や鉄刀など継続的に入手し、後期には中国古代城郭(城壁)を意識した集落を営むなど他の地域とは違った中国文化の濃い佐賀特有の文化を生んだ。その要因となったものは何なのか、について考えてみたい。



<お問い合わせ先> 佐賀県日中友好協会 事務局

〒849-0926 佐賀県佐賀市若宮2丁目14-1 ホワイトピア若宮103号

TEL&FAX 0952-33-1200

e-mail: saganichu@rapid.ocn.ne.jp

<http://www.saganichu.com>